

芸術科

主任：山下 紀子

(1) 今年度の目標

- 1年：基本的な理論や基礎的な表現技術の定着を図り、自分の視野を広げていくとともに心豊かな生活の創造に芸術を生かせるような態度を育む。
- 2年：1年次に培った基礎的表現力の上にさらに創意工夫・応用して自己の表現能力を高めてレベルアップした幅広い表現活動ができるようにし、生活の中で芸術を楽しませる。

(2) 主な取り組みの計画

- ①中学校での学習内容の把握と復習をして、表現の基礎・基本となる理論や技術を的確に指導する。
- ②年度末の『学習成果発表会』に向けて、段階的な到達点を各自（グループ）で設定して計画的に取り組ませることで、自主的な計画性を育成するとともに、創る喜びと発表する達成感を味わわせる。
- ③個別指導に重点を置き、個性の把握と理解に努め、個々に合わせたきめ細かい指導を心がける。

(3) 授業アンケートの結果と分析

<音楽>

ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。基本的な奏法は、ほぼ習得しているが、表現の工夫が苦手な生徒がいる。発表会に向けての姿勢、取り組みはとても前向きである。

<美術>

今年度の制作は、前年度より制作時間を短縮していたが、全体的に意欲的な解答が多く、粘り強い取り組みが感じられた。

<書道>

今年度はクラスの授業時間に大きな差はなく、足並みをそろえて取り組むことができた。授業については、ここ数年同様に概ね肯定的で好印象の回答がほとんどである。素直に取り組む生徒が増加しているが、理解面では、用語に分かりづらさを感じている者も少しずつ増えているのが現状である。

(4) 今年度の成果と課題

<音楽>

発表会に向けて、積極的に取り組むことができている。授業時数が少ないので、前回の授業が次の授業につながるように指導したい。また、それぞれが目標をきちんと設定し、最終的にどのような演奏をしたいのかを意識させたい。

<美術>

制作意欲が旺盛な生徒が多かったこと、また今年度は制作の進捗の確認をこまめに行ったことで、進捗のばらつきが例年より目立たなかった。意欲的な雰囲気は今後も大切にしていきたい。

<書道>

意欲を喚起できる指導を心がけてきたが、素直に乗って取り組めるものとは違うものがあり、すべてには難しいところがあった。地道な活動でも1時間の中でのメリハリをつけて指導していきたい。授業評価の少数の声に耳を傾けて授業の改善に取り組んでいきたい。